

(別添4)

## 【大山町】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

通信技術（ICT）が飛躍的に進展し、GIGAスクール構想により、県内すべての小中義務教育学校において1人1台端末が整備され、学習への活用を図るとともに、社会全体に大きな変化が起こり始めている。

また、人口知能（生成AI等）は、様々な産業分野における省力化や自動化を進めるとともに、人々の生活の質的向上にも大きな影響を与え、先端技術が産業や社会生活に積極的に取り入れられた「Society5.0」と呼ばれる未来社会の到来により、一人ひとりが豊かな人生を実現することができる教育が求められている。

本町においても、GIGAスクール構想により実現した子どもたちの1人1台端末環境をいかし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、子どもたちが自ら進んで学習する自律的な学習者となり、自由な発想でICTを活用し、見出した課題を主体的に解決する探究的な学びを推進する。

また、子どもたちがICTを十分活用し、その恩恵を享受できるようにするために、デジタル教材・教科書のさらなる活用、教職員のICT活用指導力向上、ネットワーク環境の整備、教育データの利活用、推進体制の整備、校務の改善等、ICT教育環境をソフト、ハードの両面で整備していく。

#### 2. GIGA第1期の総括

全町共通の学習用ツールを導入するとともに、小学校1年生から中学校3年生まで引き継げるアカウントを活用することにより、教職員、児童生徒とも同じ環境で学びを継続することでICT活用が進んだ。また、オンライン、クラウドを活用した多様な学びに1人1台端末を活用する姿が見られるとともに、オンラインアンケート等による業務の改善が見られるようになった。教員による活用から、児童生徒が、自らの課題解決のために主体的・自律的に端末を活用する学校が増えてきた一方、課題として、教員間、学校間のICT活用、ICT活用指導力に差がみられることから、引き続き、情報活用能力等、児童生徒が自ら学ぶための「学び方」を身に付け、発揮できるよう教員の授業観の転換を図る研修の実施や、取組の共有化、外部人材の活用等が必要である。

ネットワークアセスメント等の実施により、通信の改善は図られているが、まだ十分とは言えず、現状の把握や阻害要因の検証改善を進めるとともに、今後の通信量増大が想定されることから、安定した高速大容量通信環境に向けてネットワークの確実な整備及び運用を図る必要がある。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

GIGAスクール第2期においても、引き続きソフト、ハード両面でICT教育環境を整備していくとともに、より効果的な利活用を進めるため、教職員のICT活用スキルの向上、支援体制の充実、ネットワーク環境の改善を図る必要がある。

1人1台端末環境下において「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るため、端末の持ち帰りによる家庭学習の充実や、児童生徒一人ひとりの学習ニーズや状況に対応した支援による学びの保障、情報共有ツールやオンライン機能を用いた授業などの積極的な活用を推進する。